

豊田かおるの
“ココを伝えたい!”

名古屋市

令和4年度予算について



令和4年2月定例会において、令和4年度の予算が可決されました。今年度予算の中で、私、豊田かおるが積極的に取り組んでいるテーマについて、インタビューに答えました。

●いじめ対策を強化!

私は、「『いじめがあるかもしれない』という認識を持って子どもを受け止める役割を果たしてほしい」と市に対して訴えてきました。

■予算の評価ポイント

- ◆「学校や教育委員会が行っているいじめ防止対策に対する調査や検証」を予定。
- ◆「子ども権利擁護機関」の相談員を増やし、相談時間の一部を延長することに。さらに、子どもの権利擁護に関する問題点を調査する専門チームの配置を予定。

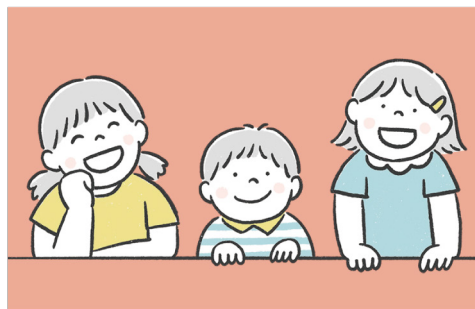
▼豊田かおる議員インタビュー

いじめ防止対策に関する取り組みに多額の予算が割かれ、実施されるのは素晴らしいことです。ぜひ子どもたちが気持ちよく過ごせるよう取り組みを進めていただきたいですね。



また、有識者で構成された「いじめ防止対策の調査検証機関」を設置し、「学校や教育委員会が『名古屋市いじめ防止基本方針』に基づいて、いじめ対策に取り組んでいるのか」を調査・検証するという点も、大いに期待したいところです。

しかし、懸念点もあります。7月15日開催の「いじめ防止対策の調査検証機関」の委員を決める「総合教育会議」で、2018年に名東区の中学生在が自死した案件の調査検証委員がようやく決まりましたが、大人の都合でなかなか前に進まない印象を受け、歯がゆさを感じました。何よりもまず子どものことを一番に



考えスピード感をもって、「いじめを苦しむ子どもを今後一人も出さない」ことを目的に調査検証し、改善に向けて着実に前進してほしいと思います。

●今後の取り組み — 子どもが安心できるまちづくり —

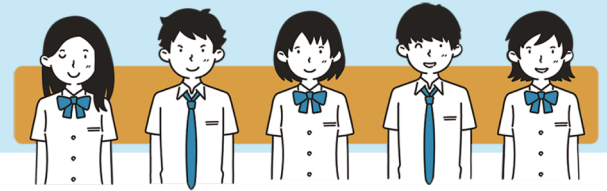
今後は、子どもが安心して暮らせるまちづくりを推進していきます。そのためには教員や保護者の方がメンタルヘルスリテラシーを学ぶ機会が必要です。子どもと関わる大人が、子どものメンタルについての知識を身につけることで、小さな子どもの変化に気づき、適切な対処ができるでしょう。豊田かおるは、メンタルヘルスリテラシーを大人が学ぶ機会を設けられるよう、働きかけていきたいと思っています。

●教室以外の居場所づくり

一つの学校の中で多様性を受け入れ、学校を「今ここにいたいと思える居場所」にすることが必要だと、私は市に主張してきました。

■予算の評価ポイント

- ◆様々な理由で教室へ入れない生徒が、学校内の教室以外の居場所で学ぶことで、安心して学校生活を送れるようにする「教室以外の居場所づくり」が実施されることとなりました。



▼豊田かおる議員インタビュー

教室以外の居場所づくりによって、学校を「今ここにいたいと思える居場所」へと変革していこうとする市の姿勢は評価できます。

しかし「教室以外の居場所」を担当する教員の考え方・見方次第では、その「居場所」はどのような空間にもなり得ます。だからこそ担当教員は、子どもを捉える考え方や見方を、きちんとした人間観に基づいて実践できる人材でなくてはなりません。担当教員の方には、双方向のコミュニケーションを取り、



子どもが「自分はひとりじゃない。多くの人とつながっているんだ」と感じられる居場所を作り出していきたいです。

教室以外の居場所づくりについて、市民の方々からは、「不登校だけでなく、いじめ自死のようなことが起こらないように取り組むべきだ」「教員への抜本的な教育や業務改善も行うべきだ」「学校は子どもの困難に気づき、支援につなげる福祉的機能をもっと強化すべき」という意見をいただいております。

教育長の答弁によると、今年度は担当教員向けの研修を行ったり、学校間で連絡会議を開いて情報交換を行ったりする予定とのこと。子どもにとって「ここにいたい」と思えるような居場所づくりを期待しています。

2月定例会の個人質問「校内の教室以外の居場所づくりにおける専任教員の在り方について」を新聞に取り上げていただきました!



2022年6月6日 日本教育新聞